

2019年度後期 知の市場(シラバス)

継続

科目No.	関連講座JK454	科目名	持続可能な社会と環境					副題	リスクマネージャが読み解く地球環境問題		
連携機関名	日本リスクマネージャネットワーク	水準	基礎	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	火曜日18:15~20:15	拠点 (開講機関)	大阪・千里山(日本リスクマネージャネットワーク/ 関西大学化学生命工学部)
科目概要(300字)	21世紀は「環境の世紀」といわれ、地球温暖化を含む気候変動、生物多様性の喪失、水や食品の安全性など、人間を取り巻く環境にひそむリスクについての議論が世界的に高まっている。そのような状況の中、2015年9月の国連サミットにおいて「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」が全会一致で採択された。本講座では、複雑で多様な地球環境問題について、最新のトピックスや身近な関心事も交えながらリスクマネージャの視点から解説し、「持続可能な社会と環境」の実現に向け、そのための知識と感性を身につけることを目標とした講義を提供する。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字以内)	講義日	開講場所	取組め者	講師	所属
オリエンテーション	1	(前半)講義の進め方について(後半)リスクとは何か	(前半)講座全体のテーマと趣旨、講座の進め方、レポートの提出方法、レポートの評価方法について説明する。(後半)身近なリスクを知り、リスクへの対処方法(マネジメント)を考える。	2019/10/1	関西大学 千里山キャンパス 第4学舎 3号館 3202教室	宮崎 隆介	宮崎 隆介	日本リスクマネージャネットワーク
持続可能な社会への取組み	2	環境と法制度の変化	環境に関する法の立法過程、環境に関する法の特徴(環境負荷発生源に対してどのように規制しているのか、環境をどのように保護しようとしているのか等)について、キーワードを挙げながら解説する。また、実際の環境紛争において法がどのように機能しているのかを裁判例等を紹介しながら解説する。	2019/10/8			砂川 辰彦	
	3	地球温暖化とSDGs	地球温暖化の現状を理解するとともに、SDGsとはどういうものか、なぜこのようなものが考えられ、世界で注目され、関心を集めているのかについて考える。	2019/10/15			石橋 博	
	4	企業の社会的責任	昨今、利潤の極大化、顧客の満足、株主価値の拡大、これらが「企業の社会的責任」と限定する人は少なくなったが、「企業の社会的責任」の認識は人々時代により多種多様である。戦後の復興期における責任課から、「地球環境保全」「SDGs」「ESG投資」といった最新のグローバルな課題に至る「企業の社会的責任」の遍歴を辿り、企業のあるべき姿を考える。	2019/10/22			古沢 啓一	
	5	環境ビジネスと経済	東南アジアでは水道水は飲めない、水質は日本の井戸水と比べ硝酸態窒素濃度が高い点以外は良質なのだが、行政側は飲める水道水にしようと積極的にはしていない。お金にはいろいろな意味合いがあって善意が必ずしも良いというものではない。環境ビジネスと経済の絡み合った紐の結び目を一緒に考える。	2019/10/29			新田 恭司	
	6	まちづくりと環境	吹田市のまちづくりの事例から、まちの成立、成長・発展、そして環境配慮をもとにした「環境まちづくり」へと、まちのあゆみについて詳細に解説をする。また、最近のまちづくりの動向やこれからのまちづくりについても紹介する。	2019/11/5			楠本 直樹	
	地球環境とリスク	7	地球の環境	水圏・地圏・気圏など地球の姿と生物多様性の視点から持続可能性について学ぶ			2019/11/12	
8		化学物質のリスク管理	化学物質のリスクとは何かを解説し、化学物質リスクの評価方法、化学物質に関連する法体系を述べる。具体的な国内・海外の関連法規制についても触れる。化学物質によって引き起こされた最近の事故例、対策および今後の課題等を紹介する。	2019/11/19			奥村 勝	
9		大気と水の汚染と対策	日本でもかつては水と大気の公害により健康被害が発生したが、経済優先ではなく環境優先を明確にし有効な対策により公害は改善されてきたこと、しかし現在でも環境基準はすべて達成されたわけではなく、残っている課題もあることを解説する。また、水質事故や公害苦情処理を事例にリスク管理について考える。	2019/11/26			刑部 忠彦	
私たちの生活と環境リスク	10	土壌汚染とリスクマネジメント	先ず、土壌汚染がもたらす環境リスクについて解説し、次にその対応方法(定量的なリスク評価と経済的・社会的ファクターを考慮したリスク管理)を紹介するとともに、わが国の土壌汚染対策行政におけるリスク評価活用の現状から科学的知見と国民認識との間に生じている「安全と安心のギャップ」について考える。	2019/12/3			久保田 俊美	
	11	廃棄物と暮らし	戦後経済の高度成長に伴う大量消費・廃棄によるごみ問題を解決するために廃棄物処理法が昭和45年に制定され、生活環境の保全や公衆衛生の向上を目指したが、その後様々な予期せぬ問題が発生し改訂されてきた。その経過で、いかに生活リスクに対応してきたかを学ぶ。放射性廃棄物やマイクロプラスチックにも触れる。	2019/12/10			遠藤 憲雄	
	12	医薬品による環境汚染	私たちの暮らしになくてはならない医薬品が使用後に環境に及ぼす影響を毒性的視点から例示・解説する。また、この問題に対する社会の対応、国際的な動向などを紹介しながらリスク管理のあり方を考える。	2019/12/17			東 泰好	
	13	農業と食の安全	世界貿易でのTPP、FTA、EPAが日本の農業へ与える影響と予測されるリスクについて説明し、持続可能な農業経営が求められていることを紹介する。また、遺伝子組替や抗生物質、農薬などがもたらす、生物多様性の喪失や健康影響について考える。一方、食の安全性の観点からGAP、HACCP、AW(アニマルウェルフェア)などを紹介する。	2019/12/24			西村 庄司	
持続可能な社会をめざして	14	持続可能な社会をめざして	これまでの講義を受けて持続可能な社会におけるリスク事象やリスクマネジメントとは何かを皆で討議する。グループ分けを行い、リスクマネージャが各グループに入ってファシリテートし、最後に各グループごとに発表を行う。	2020/1/7			宮崎隆介 他講師陣	
	15	社会の中のリスク	自然災害のリスク(東南海・南海地震などを想定し、私や家族や地域や行政の立場に置き換えて「ワークショップと模擬リスクコミュニケーション」を試みる。リスクマネージャも参加して、リスク感性を磨く。	2020/1/14	久保田俊美 他講師陣			

リスクマネージャ : リスクマネージャは、日本リスク研究会(1988年創立)認定の「リスクマネージャ養成プログラム(*)」を修了し、同学会に登録されたものに与えられた認定資格です。
 (*)文部科学省科学技術振興調整費 新興分野人材養成高度環境管理プログラムとして採択され、大阪大学大学院 工学研究科(環境・エネルギー専攻)が運営したものが、初めての認定「リスクマネージャ養成プログラム」になりました。